

笠森寺(国指定の重要文化財)の基礎をLL 補強土で補強

【笠森寺説明】

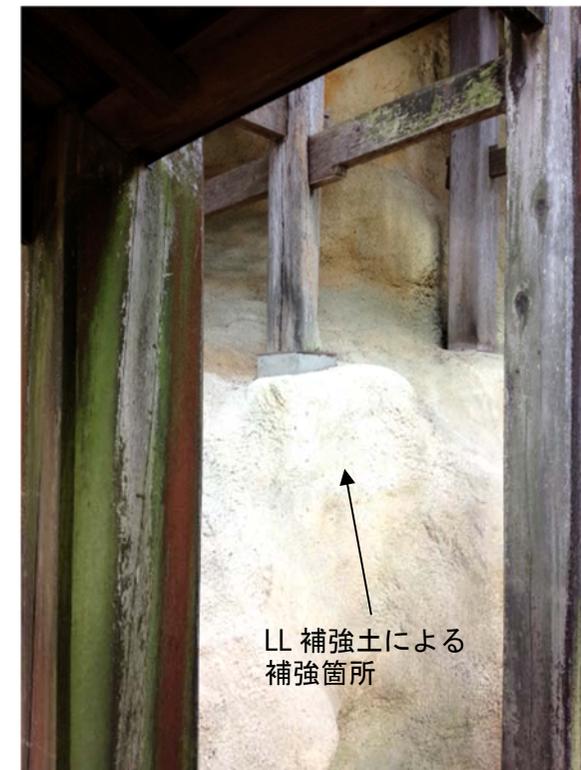
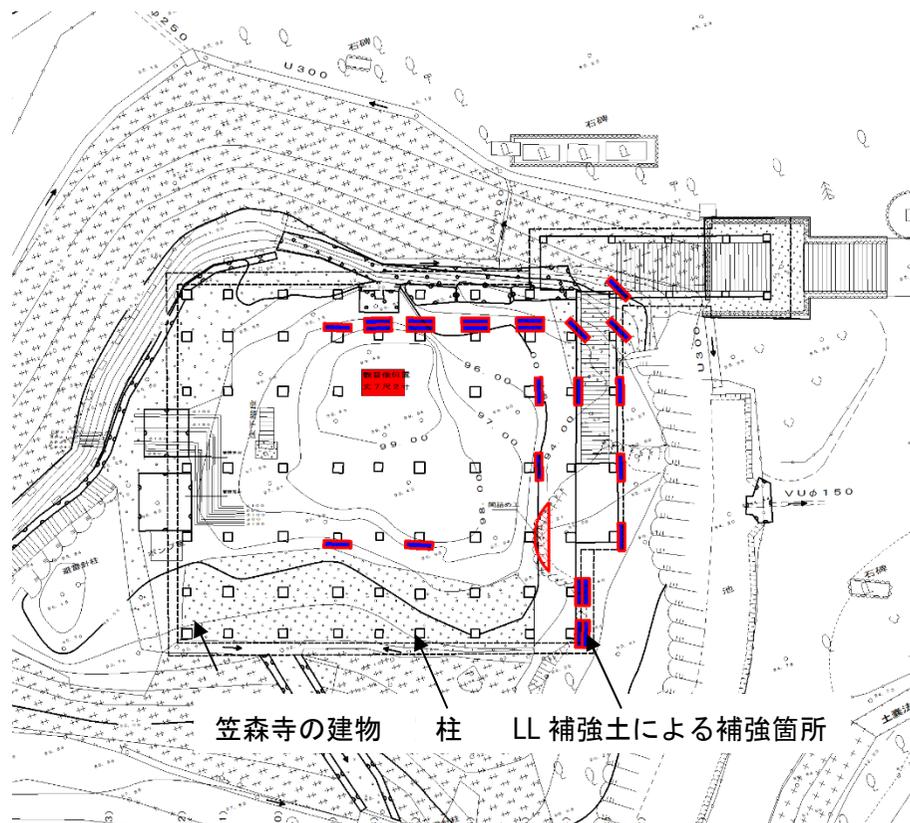
笠森寺（かさもりじ）は、千葉県長生郡にある寺院で、建物は国の重要文化財に指定されています。延暦3年（784年）に最澄（伝教大師）が霊木で十一面観音菩薩を刻み安置し開基されたとされ、古来より巡礼の霊場として知られています。大岩の上にそびえる観音堂は、61本の柱で支えられた四方懸造と呼ばれる構造で、日本で唯一の特異な建築様式だそうです。

現在の建物は文禄年間（1592年-1595年）の再建とされ、回廊からは、四季それぞれに美しい房総の山々が眼下に眺められ、天然記念物に指定されている「笠森寺自然林」とともに、その景観は素晴らしく現在でも多くの方が訪れています。



LL 補強土工の施工

国の重要文化財なので、1000年以上残していきたい文化財ですが、一般の技術では100年の耐久性も有りません。そこで使用されたのが、LL補強土工です。構造材が全てエポキシ樹脂塗装され、コンクリートの内部に保護されているので、塩害や紫外線や錆びによる劣化がほぼありません。自然景観に合うように施工されたので、補修後のLL補強土工はどこにあるか解らないほどです。これでひとまず安心でしょう。



岩盤の割れ目が拡大しつつあった
柱の基礎を補強しています